

ミニ講演会のご案内

「食の安全とタネの話」

～種子法廃止で日本の農業が危ない～

日時：2018年6月12日(火) 14:00～16:00

会場：中央公民館 3F 8、9号室

講師：山田正彦氏(元農林水産大臣)

【日本の種子(たね)を守る会顧問】



講師紹介：

長崎県五島市出身、早大法学部卒

1993年 衆議院議員

2010年 農林水産大臣(民主党菅政権)

2011年 反TPP・脱原発・消費税凍結を実現する党」代表

現在： 弁護士

日本の種子(たね)を守る会顧問

戦後の日本の食と農を支えてきた主要農作物種子法(以下種子法)が2018年4月1日に廃止されました。この種子法の下、米や麦、大豆などの主要農作物の種子の維持・開発のための施策が実施され、農家には安くて優良な種子が、消費者には美味しいコメなどが安定的に供給されてきました。

しかし、規制改革推進会議は、この種子法が民間企業の種子事業への投資を阻害するとして廃止を打ち出し、2017年2月に閣議決定、満足な審議なく4月に国会で廃止が決まりました。この廃止により、今後コメなどの種子価格の高騰、地域条件等に適合した品種の維持・開発などの衰退が心配されています。また、長期的には世界の種子市場を独占する遺伝子組み換え企業が日本の種子市場を支配していく懸念も指摘されています。

それは日本の食の安全、食料主権が脅かされることであり、消費者にとっても大きな問題です。米・麦・大豆の種子は日本の風土、歴史の中で育まれた大切な財産です。私達の食と深く関わっているこれらの種子について、ともに考えてみませんか。

会場の関係でサークル毎に事前に申込み下さい。
当日資料代として、一人300円をお支払い下さい。

主催：食を通して所沢を知る会
所沢の自然と農業サークル
地球環境に学ぶサークル
後援：ところざわ倶楽部

連絡先：食を通して所沢を知る会 岡部まさ子
携帯：080-5872-1868
メール：mako.3160.matthew28-20@docomo.ne.jp